

2009 親子で学ぶ平和学習資料

第31集 私の戦争体験

おじいさんやおばあさんが体験した
大切な大切なお話の数々



目次

P2~6 巻頭言 「西谷文和さん講演会抜粋」
P7 大分空襲の夜 [山本 富美子]
P8 再度起こしてはダメ [湯浅 新]
P9 鎮魂のことば [井上 香織]

P11 まるで生き地獄を見るような [塩田 悦子]
P11 大阪空襲抄 [松田 修平]
P13 平和な未来のために [竹中 靖一]
P14 私の戦争体験 [天野 喜美子]



大分空襲の夜

柏原市

山本 富美子

終戦より5カ月ほど前の大分空襲（※①）の夜、毎晩のようにいつ眠りから起こされるか分からない空襲のサイレンの音に怯えつつ、いつものように眠りについていた。

父と母、それに小さい妹たち3人は、半月ほど前に20キロほど離れた田舎のいとこの家に疎開（※②）していたので、家には銀行に勤めている私と、当時の女学校4年生の妹、中学3年生の弟と3人だけだった。

毎日何事もなかった朝が明けていた。だがその晩は違った。けたたましいサイレンの音とともにグアングアンと重苦しい音と敵機が襲来した。分からない恐怖、初めて経験する恐怖に私たちは慄いた。家の中にはいつ爆弾が落ちてくるか分からない。早くどこか安全な場所へ逃げなければ……。想像のできぬ恐怖だった。私の心臓は運動会で100メートルを走ったときのよにドキン、ドキンとしていた。私を真ん中に3人はしっかりと手をつなぎ、空襲のサイレンの鳴り響く中を県庁前の広い道路へと走った。

あそこなら石の建物ばかりだし、どちらの方向にでも逃げられると思ったからだったが、ヒューツ、ヒューツと不気味な音をたてて落ちてくる焼夷弾（※③）の中を、あっちへウロウロ、こっちへと逃げ惑い、右へ行けばそちらから来た人がこっちは危ない、そっちへ逃げろという。逃げた道の両側の家には火の手が上がっていて熱くてたまらない。履いている靴の足の裏が熱くヒヨイヒヨイと飛ぶようにして走ったのを覚えている。

それから、どのようにして辿り着いたのか夜が白々と明けるころ、隣の町の小学校の校庭に白いエプロン姿のおばさんたちが、甲斐甲斐しく立ち働く様子を目にしたとき、私たち3人はへたへたと校庭に座り込んでしまった。

精も根も尽き果てたという状態の中で、炊き出しのおにぎりを餓鬼（※④）のように頬張っていた時、疎開先から私たちを探し回っていた母と出合ったのだった。

夜半に大分方面の空が真っ赤になったのを知った母は、焼け落ちた家の前にある防空壕に私

※①大分空襲

米軍機の大分への空襲は3月中旬から始まり、7月16日夜半から17日未明にかけての大空襲では市中心部の2358戸消失という被害を受ける。

※②疎開

空襲、火災などの被害を少なくするため、集中している人口や建造物を分散すること。

※③焼夷弾

焼夷弾は、爆弾・砲弾の一種で、攻撃対象を焼き払うために使用する。そのため、発生する爆風や飛散する破片で対象物を破壊する爆弾と違い、焼夷弾は中に入っているもの（焼夷剤）が燃焼することで対象物を火災に追い込むのが目的。

※④餓鬼

仏法用語のひとつ。悪行の報いとして餓鬼道に堕ちた亡者。痩せ細って喉が細く、飲食することができないほど、常に飢渴に苦しむという。



寄稿 井上香織様
「わが青春の記」より

たちを探しに行ったらいいが見つからないので、あちこちと聞きまわり、避難した人たちは南大分の小学校に集まっていると聞いてきたらしい。4キロも離れている小学校へどうして行ったのか人の流れに押されて辿り着いたに違いない。

このような恐ろしい経験は、これからの日本を背負っていく若い人たちに絶対、味あわせたくないと思います。

再度起こしてはダメ

富田林市

湯浅 新 (85歳)

私たちの青春時代は戦争中で残念な時を過ごしたから、子どもたちや孫たちには絶対に戦争を体験させてはいけない。私は19年兵で1月下旬、満州の牡丹江で勤務していたので駅から佳木斯駅に到着後、独立守備歩兵部隊(※①)に入隊。地獄の初年兵教育(※②)が始まり、終り1年後、満方山陣地に転属。衛兵(※③)、乗馬訓練終了後、速射対戦車砲(※④)部隊に転属。ロシアは不可侵条約(※⑤)を一方的に破棄。ドイツに勝利したので少数の留守部隊を攻撃。満州国境の精銳関東軍は兵力、武器を総動員して敗戦が続く南方の戦線に7割以上を転進。戦闘に参加したけれど船での移動中に艦ともに沈没した部隊が多く、南方戦線(※⑥)で健闘したものが少なかったと聞きました。

ロシアが満州国に不法侵略、侵攻してきたときの私たち独立守備隊日本兵には小銃だけで軽機関銃も重機関銃も大砲も少なく、軍用飛行機もなく(南方に兵器移動のため)陣地を構築した者たちは、1人で5丁の鉄砲5力所に固定して500人の人員で敵に1500人いるように誤魔化して全滅したとか? またある陣地では終戦後も数カ月激戦後に数千の戦死者を出し、数百名が捕虜として投降したとか? 情報が次から次へと伝達がくる。

私も黒龍江から通過する小型戦艦1隻撃沈し、同時塹壕(※⑦)を爆撃され部下を戦死者6名と4名戦傷者を出し、上官に報告、部下を処理し本部に逃げ帰ったことを思い出す。二度と戦争を起すしてはいけない、8月15日天皇陛下の命により、無条件降伏停戦(※⑧)となる。ロシア人(囚人を解放し兵を急増)ロシア兵がくる。1カ月後武装解除丸腰になる。毎



※①独立守備歩兵部隊
独立守備隊は、関東軍の前身で遼東半島及び南満州鉄道の警備を目的に数年後とに各連隊より抽出された大隊で編制された部隊である。

※②初年兵教育

初年兵教育は中隊の下級将校が教官となり指揮をした。初年兵の手を取って指導するのは二次以上の古参兵の助手である。「気をつけ」や敬礼などの基本動作から始まり、銃剣術、兵器の取り扱い、戦術的な訓練などへと進んでいく。教育の進捗状況は3か月ごとに検閲を受け、その結果は初年兵の将来だけでなく教官や中隊長の査定材料ともなった。

※③衛兵

警護・取締りのために配置されている兵。

※④速射対戦車砲

素早く立て続けに発射でき、敵先頭車両に打撃を与えることのできる銃砲。

※⑤不可侵条約

日ソ中立条約は、1941年(昭和16年)に日本とソ連の間で締結された中立条約。相互不可侵および、一方が第三国の軍事行動の対象になった場合の他方の

日ブラブラして40日間経過し10月には冷夏の地に夏服のまま強制拉致(※⑨)、戦時賠償・強制労働8時間。1日主食は100gの黒パンか家畜が食べるような雑穀少量。グリーンピーズが1個入った塩水少量が1日の食事で大木の伐採、線路工事または敷設、貨車への積み込み、ビル建設レンガ積み、焦土の穴掘り、抗道、石炭掘り、3名が持ち上げた石を腰に乗せ50メートル運搬し落とす、発破(※⑩)の穴掘り、農業作業、食料品の貨車積み込み、夜中の貨車の積み込み。ブヨ(※⑪)の多いときは頭から石油を体に塗ったり網を被る使役。よくある強制労働だった。ノルマが高く食料が少ないので体力が低下して体は骨皮筋衛門(※⑫)になり、強制労働で抵抗力がなくなり、初めてシベリアの収容所Ⅱ凶悪犯罪人の監獄へ。私たち2,000名が半年もしないうちに1,000名死亡。死亡したら服を全部脱ぎ全裸にてロシア兵が死体置き場に運び、冷凍のマネキン人形になった死者を手、足、首の折れたバラバラの死体をアムール川とかバイカル湖とかに捨てたのを見たという話を聞いた。私も冬一晩外に置き動かしただけで死体を収容所で見ることが再三ある。我々の戦友は山に無理をして穴を掘り服を着せたまま埋めたこともある。

4年間の地獄の無法強制拉致労働で人並みな食配給もなく、ロシアシベリア囚人並みの強制労働で死んだ仲間も数多くいた。

鎮魂のことは

東大阪市

井上香織(82歳)

終戦後、故国日本に帰りたいという切なる気持ちも忝なしに、新京から強制労働のために拉致されて連れて行かれた所はシベリアの一炭坑町ブカチャーチャの捕虜収容所(※①)で

中立などを定めた全4条の条約本文、及び、満州国とモンゴル人民共和国それぞれの領土の保全と相互不可侵をうたった声明書から成る。

※⑥南方戦線
南太平洋方面に広がった戦地。

※⑦塹壕
敵の攻撃から身を隠す防御施設。主には溝を掘りその前に土を積み上げたもの。

※⑧無条件降伏

無条件降伏とは、普通には軍事的意味で使用され、軍隊または艦隊が兵員・武器一切を挙げて条件を付することなく敵の権力にゆだねることを言う。

※⑨強制拉致
むりやりに連れて行くこと。

※⑩発破
爆薬を仕掛けて爆破すること。

※⑪ブヨ
ハエ目ブユ科の昆虫。ハエに似て小さく、体長2〜8ミリ、雌は人畜から吸血し、刺されるとかゆい。

※⑫骨皮筋衛門
文字通りこれ以上は痩せられないほどに痩せている様子。

あった。
 帰国を唯一の希望として、食って寝て働いただけという泥沼のような生活が続いた。食べるものは何もなかった。零下四〇度の冬は寒かった。そして病気にかかっても病院もなければ医師も薬もなかった。

このような人間生きるか死ぬかの最低ギリギリの生活が続いた上に、昭和20年から21年春にかけて、飢え・寒さ・不潔・疲労の悪条件が重なって虱(※②)が繁殖し、高熱と脳症を伴う発疹チフス(※③)が収容所全体に蔓延し多くの犠牲者が続出した。

「お母さんっ。帰ってきたよーっ」。仮設2段ベットの上で、突然立ち上がって、天井の一角を凝視しながら絶叫した若者が、その場にバツタリ倒れて絶命した。

このような地獄さながらの光景が毎日のように続いた。一番の最悪期には一日に10人から15人の死者が衣類を剥がされ、裸のまま荷車に山積みになされて、収容所近辺の山林を切り開いて急遽、造成された墓地に運ばれて埋葬されたのである。

旧制中学5年から、国を愛する純粋な気持ちで軍人を志願した18歳前後の私たち士官候補生230人が、このブカチャーチャに収容されていたが、そのうち実に86名が父母兄弟姉妹を慕い、故郷を夢見ながら次々と帰らぬ人となってしまったのである。ただ生きて帰りたいという切なる気持ちも叶わず異国の土となった学友を思うとき、ただただ胸が詰まる思いがいたします。

残された私たちは、2年から4年間の抑留(※④)生活を耐え抜いて幸い祖国の土を踏むことができた。以後今日まで60年余り、そして今後自分が死ぬまで亡くなった学友の無念さを忘れることなく、心から冥福をお祈りし続けることでしょう。

そして今後二度とこのような悲惨な経験を味わうことのない世の中であって欲しいと願うばかりであります。



※①捕虜収容所
 捕らえた敵兵などを入れておく施設。

※②虱
 哺乳類の皮膚に寄生し、血液を吸う。

※③発疹チフス
 衣虱(ころもじらみ)、頭虱(あたまじらみ)から伝染する伝染病のひとつ。

※④抑留
 強制的に収容されていること。



「わが青春の記」より

まるで生き地獄を見るような

八尾市

塩田 悦子 (83歳)

3月13日の大阪大空襲(※①)のときに私は大阪市西区の北堀江に住んでいました。空襲警報(※②)の鳴り響く中、家の中に掘ってあった防空壕(※③)に入り、しばらくするとザーと夕立のような音がするので、はじめて外へ出ると焼夷弾が火を噴いて落ちてきました。早速バケツで水をかけていましたが、とても追いつかずリュックサックにいろんなものを詰めてあったのに持ち出したものはヤカンに米をいれたものひとつだけでした。右往左往して雨あられを落ちてくる中、黒焦げになった死体を取り越えて逃げて桜川まできて道頓堀川の川べりでじっとしていましたが、後ろは材木問屋でよく燃え、前の川のいかだも積んである材木が燃えてまるで昼間のような明るさと熱さで生き地獄を見たような感じでした。警報解除後、さっそくヤカンが間に合って水道も火もあるのでご飯を炊いて食べたことをよく覚えています。6月には学徒動員(※④)で此花区の住友電気に行っておりまし。その時は淀川あたりまで空襲警報で逃げ多数の人が機銃掃射で傷ついたり亡くなった人を見ますが、本当に残酷な戦争は絶対にしてはならないと思います。平和な日が続くことを心より念じております。

大阪空襲抄

八尾市

松田 修平 (79歳)

昭和20年3月14日夜半から、B29の空襲によって大阪の空は紅蓮(※①)の炎に染められていた。その下に繰り広げられた阿鼻叫喚(※②)のさまは、遠くから見ていた私には想像できても、それ以上のことは書けないと思います。

乗り物の開通を待ち、知人のAさんを大阪に訪ねました。上町台地で降り立ったとき、ただ

※①大阪大空襲

1945(昭和20)年3月13・14日、米軍機は1700トン以上の爆弾を投下、梅田から難波まで見渡せるほど焼け野原になった。

※②空襲警報

敵機の襲来が近づいたことを知らせるサイレン。

※③防空壕

空襲の際に避退するため、掘って作った穴や建造物。

※④学徒動員

1943(昭和18)年、それまで兵役を免除されていた大学・高等学校・専門学校の学生たちも戦場に狩り出されることになった。特攻隊員になって敵に体当たりしたり、前線に向かう途中に船ごと沈められたり、またあるいは病気に倒れたり、その多くが再び母の顔を見ることはなかった。

※①紅蓮

紅色の蓮華。猛火の炎の色にたとえる。紅蓮地獄の略。

※②阿鼻叫喚

阿鼻地獄の苦しさには耐えられないで泣き叫ぶ様子。転じて、甚だしい惨状を形容する言葉。

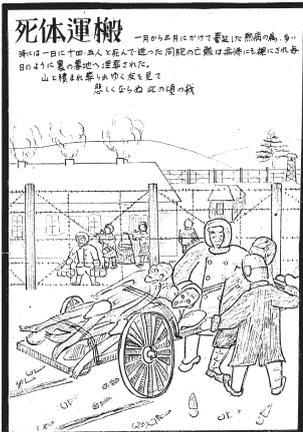
※③ムシロ

筵。藪(い)・蒲(がま)・藁(わら)・竹な

茫然とせざるを得ない光景に目を奪われました。それは天保山と思われる彼方に、大阪湾の水
平線と思われるものが見えています。天保山までの一帯は焼けたビルと土蔵が残っているだ
け。まさに荒野と化していました。上六から心斎橋まで歩くあいだにも電柱（当時木製）が、
いたる所でくすぶり続け、その下にはムシロ（※③）を被せた被災者の遺体が横たわり、ムシ
ロを捲って、身寄りの知人ではないかと確かめている人。被災した家の防空壕に寝泊りしてい
る人。訪ねてくるであろう肉親知人に宛て連絡先を木札に書いて立てている人。ガス、電気は
まだでしたが、折れた水道から水はチョロチョロ流れ出ていました。焼け跡はまさに瓦礫（※
④）の山です。先に書いたように私の知っている大阪空襲の話はこれまでです。が今、耳を澄
ますと幽かではあります。が軍靴の響が聞こえてきませんか。

昭和25年、警察予備隊（※⑤）が発足しました。昭和29年7月には防衛庁及び、陸海空の自
衛隊となり、現在、防衛省になるとともに世界屈指の軍隊となっています。

そして8月がやってきます。テレビなどで特攻機が（※⑥）飛び交い、年一回の式典も行わ
れ反省のいい機会であるべきに、近年8月だけにおわってストレートに死者を悼む心をなくし
てはいませんか。昭和20年3月9日、東京大空襲（※⑦）に始まって大阪大空襲。広島・長崎
（※⑧）の原爆投下となります。せめて米国が7月にニューメキシコで行った原爆実験に成功
したときに戦争を終わらせていたら、あるいはもっと早く日本に不利な戦争の行方を見すえて
いたら、この2―3カ月の間に亡くなられた方々（広島、長崎もありました。特攻機も飛びま
した）は無かったと思うとき、その犠牲のあまりの大きさに強く厳しい怒りを感じずにはいら
れません。



「わが青春の記」より



「わが青春の記」より

どで編んだ敷物。「わらむしろ」の略。

※④瓦礫

瓦と小石。

※⑤警察予備隊

1950（昭和25）年、警察力の不足を補うとの名目でGHQの指令により設けられた武装部隊。日本の再軍備の始まりとなり、1952年保安隊に改編、1954年自衛隊、2008年には防衛庁がついに防衛省へと昇格する。

※⑥特攻機

特攻（＝特別攻撃）とは、爆弾を搭載した軍用機や、爆薬を載せた高速艇等の各種兵器が、敵艦船等の目標に乗組員ごと体当たりする戦法である。乗員が生還する可能性は皆無に等しく、「突入」すなわち「死」を意味すると言えた。

※⑦東京大空襲

1945（昭和20）年に入ると米軍は一般市民への都市爆撃を大々的に開始。100回を超える無差別爆撃で東京市街地は6割を消失、住民の半数近くが家を焼けて出された。

※⑧広島原爆

米軍は1945（昭和20）年8月6日、世界で初めて広島市に原子爆弾を投下した。広島市内では、子どもたちは校庭に並んだまま、通勤者は電車に乗ったまま、ままの姿で殺戮された。

※長崎原爆

二発目の原子爆弾は8月9日、長崎市に投下された。市内では軍需工場に狩り出されていた生徒や多くの市民が倒壊した建物の下敷きになって圧死し、または生きながら焼き殺された。

平和な未来のために

吹田市

竹中靖一（執筆時75歳）

私は予備役（※①）の主計将校（※②）でしたので、太平洋戦争のとき召集（※③）されて、上陸作戦部隊の軍司令部の経理部で勤務しました。太平洋を乗り切ってラバウルへ行ききました。大蔵省から資金を貰って隷下部隊へお金を渡す役をしました。ラバウルではたびたび空襲にあって防空壕へ入りました。5メートルほどの近くへ爆弾が落ちて地震にあったような経験をしたこともあります。

ラバウルからフィリピンのセブへ移りましたが、太平洋で3日間、アメリカの潜水艦に追っかけられ、6隻の船団の中、1隻に魚雷（※④）が命中して撃沈しました。船尾を上げて5分間で沈みました。その船には5、6人しか乗っていませんでしたので、損害は少なくてすみしました。私たちの乗っていた船の列に魚雷が5つ発射されましたが、先頭の船の船先にあった大砲から撃った弾が、真ん中の魚雷に命中し、その爆発の圧力で他の4つの魚雷は脇へそれ、私たちの船の横を通っていきました。私はその魚雷の雷跡を見守っていました。その頃は部隊へ渡す資金を保管する役でしたので、船の舷側にいくつも並べさせ、魚雷が命中したら、海中へ投下させるよう命令する役目を与えられていました。30回ぐらいアメリカの潜水艦に襲われましたが、いずれも無事でした。

セブから広島に帰ることにりましたが、私は飛行機に乗せてもらいました。軍用機でしたから空調設備はなく寒い思いをしました。天候が悪く海上すれすれに飛びましたから恐ろしい気がしました。

8月6日、世界で最初の原子爆弾が広島に投下されました。大変な被害で悲惨な状態になりました。あまりにもむごい有様でしたから、私はその有様を語るに憚りません。それで誰にも話さないことにしています。やけどを全身に負って多くの人が死んでいきましたが、私たちの部隊へ収容されていきますので、軍医部にあった油薬はたちまちに無くなり、私が保管していた生バタールを供給して、油薬の代用に使ってもらいました。

※①予備役

兵役を終わつた軍人が、その後一定期間服役する常備兵役。必要に応じて召集される。

※②主計将校

会計を任務とする士官。

※③召集

召集の対象となるのは帰休兵・予備兵・後備兵・国民兵の他、予備役・後備役にある将校・下士官で、召集される者を召集員と呼ぶ。通常召集等の兵事事務は一個から数個の都府県（北海道他外地は別体制）を管轄する連隊区司令部が行う。召集員の現住所に関らず、本籍地にある連隊区司令官から市町村長を経て本人に通知される。充員召集や臨時召集など、戦地に赴く事のある召集は、召集令状が淡い赤色であったことからこれを俗に赤紙という。召集員となつた者は召集令状・軍隊手牒・適任証書・勲章記章及び徽章・印形を携帯し出頭する。

※④魚雷

魚雷は、魚形水雷の略であり、弾頭にエンジンと高速スクリューを組み合わせ、水中を移動し、衝突した艦船などを爆発によって破壊することを目的とした兵器である。

※⑤営庭

兵営の中庭・運動場。

原子爆弾が落ちたのは午前8時15分でしたが、その頃私たちは営庭(※⑤)へ下士官(※⑥)を集めて訓話をしていました。原子爆弾のことをピカドンといいますが、ピカッと光ってびっくりしました。昼と夜の明るさの違いを昼の明るさに加えたほどの明るさで私は驚いて地上に伏せたので、その上を爆風が通っていききましたが、ポカんと立っていた下士官は吹っ飛ばされています。風呂場と炊事場とは頑丈な建物でしたが、その柱が折れて二棟とも倒壊しました。私の家では一週間前に赤ん坊が生まれました。その時、藤の寝台に寝かせていましたが、爆風で赤ん坊と寝台とはそれぞれ別方向に吹っ飛ばされ、赤ん坊は布団にのっただまま着陸し、そこへふすまが倒れてきて、赤ん坊の側にあった物の上へかかって橋のようになり、その下で赤ん坊が保護されました。みんなが赤ん坊がいなくて大騒ぎしましたが、ふすまをのけてみると、そこにやにや笑っている赤ん坊を発見して大喜びでした。その赤ん坊もその後、無事に育って大阪市大を卒業し、今では三人の子どもの母親になっています。

私の戦争体験

柏原市

天野喜美子(79歳)

昭和5年生まれの私は同年輩の皆様と辛い思いを共有したけれど少し違った。私の体験は凄まじいものではないけれど精神的には緊張した日々が忘れられない。小学校、女学校と勉学の間ほとんど父は戦地で留守家庭。支那事変(※①)当初から父の武運長久(※②)を祈る毎日であった。日曜日には必ず兄と二月堂へお百度を踏みに行った。母は戦場からくる報せで父の部下の方々の戦死、傷病を知り留守宅への慰問に走った。奈良連隊(※③)の方々のご家庭へ。軍人の家庭であってみれば軍の派遣について家族も満州(※④)へ三度渡ることになる。したがって転校が小学校で三度、女学校で一度に及ぶ。19年には満州から福岡へ女学校の受験間近に転校。4年生4月には故郷、奈良の女高師付属高女(※⑤)へ転校。終戦を迎え祖母と母弟と共に音信不通の父兄の無事で帰る日を待つ。福岡からの移動は空襲で大変であった。門司から下関へ真っ暗の中、荷物を持って弟の手をひいて走り、大阪行きの列車に乗ることができたが、母が見えない、心細い。灯りを掲げてホ

※⑥下士官
士官・準士官と兵の間に位する武官。旧陸軍では曹長・軍曹・伍長。旧海軍では上等・一等・二等兵曹。



「わが青春の記」より

※①支那事変
日本の中国に対する侵略戦争を当時の呼称。

※②武運長久
武士としての幸運が長く続きますようにという願い。

※③連隊
旧陸軍の部隊編成上の単位のひとつ。旅団の下、大隊の上。

※④満州

日本が中国東北部3省および東部内蒙古(熱河省)を占領・支配して作り上げた傀儡(かいらい) II あやつり国家。日本

ームを見廻りに来られた駅長に名前を告げて探してもらう。荷物が重くて母はまだまだ階段の下であったが、助けられてどうにか最後尾の列車に窓から入れていただいたとか。駅長さんがわざわざ私たちを探して伝えてくださった。心温かい時代であった。どうにか一緒に連れて列車の中で夜が明けた。ところが前夜の空襲で山陽線がブチ切れて線路がなく大久保から明石まで歩く。爆弾でできた穴を下ったり登ったり。明石からどうにか大阪行きの列車に乗れて大阪へ。国鉄奈良駅に着いたときの嬉しさは、空腹も忘れて三条通りを歩いて下高畑の祖母の家に帰りつく。九州と違って何とのんびりした雰囲気か。ホッとすると共にこれで良いのかと思う。お陰様で学生生活を送ることができた。

8月15日終戦。間もなく特攻隊(※⑥)から兄が帰郷。家庭経済、食料不足の生活で一同苦労するが各々に働ける場所があり頑張れたと思う。21年6月、父がニューギニアから帰還し家族が揃うことができた。国のために身を挺して戦場第一線で指揮をとってきた父は「国に裏切られたのだから」と一言。「馬に乗っていた人間が馬になって働かねばならぬ」とも言っていた。夜を日に継いで働けるだけ働いて29年10月13日、マラリア(※⑦)で逝った。苦勞の連続、本当に私たち一家は大東亜共栄圏(※⑧)という大義名分のもとに底知れぬ力に弄ばれたような気がする。兄は予科練から特攻隊を志願し、岩国にて終戦を迎えたが命あって家族揃えたことは大変ありがたいことである。多くの人々の犠牲の上に得られた平和である。戦災孤児(※⑨)の方々のことを思うとたまらない。無事成長されたことを祈りたい。国の命令で動かされたなんともできない時代であった。女医になりたい思いも夢に終わった。福岡高女時代の飛行機工場への動員も今は懐かしく、失ったときを飾ってくれる。再び個人の夢、理想を無にする戦争が起これらぬようにひたすら平和を祈ります。犠牲になり天国へ逝かれた方々のご冥福を、そして御礼を感謝の心を届けます。

の敗戦によって消滅。

※⑤ 女高師附属高女

師範学校、中学校、高等女学校の女子教員を養成する高等師範学校の附属高等学校。

※⑥ 特攻隊

特別攻撃隊の略称。特に、太平洋戦争中、体当たりの攻撃を行った日本陸海軍の部隊。

※⑦ マラリア

マラリアは、熱帯から亜熱帯に広く分布する原虫感染症。高熱や頭痛、吐き気などの症状を呈する。悪性の場合には意識障害や腎不全などを起こし死亡する。

※⑧ 大東亜共栄圏

太平洋戦争早期に日本が掲げたアジア支配正当化のためのスローガン。欧米勢力を排除して、日本を盟主とする満州・中国および東南アジア諸民族の共存共栄を説く。

※⑨ 戦災孤児

戦争の影響でみなし児となった子。